

令和3年度 美郷町立西郷義務教育学校（西郷幼稚園）「学校関係者評価書」

<p>■ 学校経営ビジョン</p> <p>○ 教育目標・校訓に基づき、義務教育学校の特色を活かした連続性のある多様な学びを実現することで、地域唯一の義務教育を担う学校として、地域の期待に応えるとともに、信頼される学校を創造する。</p> <p>■ 教育目標 「ふるさとを愛し、未来を拓く子どもの育成」</p> <p>■ 校 訓 「活気」… 夢や希望の実現に向け、創意工夫し実現する子ども 「和気」… ふるさとを愛し、信頼し合い、協働する子ども 「根気」… 困難を乗り越え、粘り強く努力し続ける子ども</p> <p>■ 教育理念 「連続性のある多様な学びの実現」</p> <p>【前期ブロック（幼稚園～4年生）】・ 基本的な生活習慣や基礎基本の定着を目指し、主に「教員主導型」の教育活動を行います。</p> <p>【後期ブロック（5年生～9年生）】・ 基礎基本の活用力育成を目指し、主に「子ども主体型」の教育活動を行います。</p>

<p>【目指す学校の姿】</p> <p>「子どもたちが 自分たちの力で 自分たちの学校を 創っていく」学校</p> <p>「大人たちが 自分たちの生き方（教育実践など）を 語れる」学校</p>
--

<p>【教育活動のテーマ・キーワード】</p> <p>「与えられる教育から、自らつかみ取る学びへの転換」</p> <p>「対話」 「ねらい」</p>
--

<p>【特色ある教育活動】</p> <p>① 継続した対話活動（考えを伝え合う活動、テーマに沿った対話活動 など）</p> <p>② 力を伸ばす学習評価（子どもの学習改善・教員の指導改善に繋がる評価）</p> <p>③ 主体的な生徒会活動（課題解決に向けた合意・決定・行動の在り方 など）</p> <p>④ 健康への探究活動（自分の生活から課題を見つけ、解決に向けた調査活動など）</p>
--

<p>【新たな取組】</p> <p>① 学校・家庭・地域が連携した教育体制（学校運営協議会の設置）</p> <p>② 一人一人の子どもに応じた指導体制（複数教員による指導体制の構築）</p> <p>③ 専門的な教科指導体制（全学年における教科担任制の導入）</p> <p>④ 子どもの学習改善に繋がる学習評価（「やってみよう」と思える指導・評価の実施）</p> <p>⑤ 地域と連携した連続性のある部活動（部活動に参加しやすい体制の構築）</p>

<p>【具体的実践事項】</p>	
① 連続性のある教育活動の実施	<p><常に目標とする9年生の姿をめざしながら教育活動を実施する。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した対話活動の実施 ・ 主体性のある生徒会活動の実施 ・ 課題解決を図る健康への探究活動の実施
② 子どもの成長に繋がる教育支援の充実	<p><支援体制の整備や学習評価の改善など、真に子どもの成長に繋がる支援を充実させる。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年担当制・ブロック主任制等による複数支援体制の構築 ・ 教科担任制（チームティーチング等）による複数支援体制の充実 ・ 子どもの学習改善に繋がる学習評価の充実
③ 地域と連携した教育支援体制の構築	<p><教育目標等を共有し、一体となった子どもの教育を支援する体制を構築する。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティスクール設置による地域との教育支援体制の構築 ・ 連続性のある部活動体制の構築
④ 学校における働き方改革の更なる推進	<p><継続した取組と新たな取組により、目的に迫る更なる働き方改革を推進する。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級担当制・教科担任制・複数部顧問制等による業務の平準化 ・ ワーク・ライフ・バランスを意識した時差出勤の実施 ・ コミュニティスクール設置による教育の役割の明確化

	児童生徒	保護者		教員	取組状況 及び 改善点	自己評価	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員 コメント
		義務教	幼稚園					
1 子どもは	健康を意識した生活を送っている。	3.2	3.0	/	3.0	3	3.0	○キャリア教育についてどこに重き（将来的にどこで生活していくのか）を置くかによっても変わってくると思う。 ○「ひなた場」の取り組みはとてもよかった。広い視点をもったキャリア教育に期待したい。
	自分の体力作りに取り組んでいる	3.1	3.1	/	3.0			
	夢や希望の実現に向けて努力している。	3.1	2.8	/	2.8			
	様々なことに自分から取り組んでいる。	3.1	3.0	3.6	3.2			
	様々なことに粘り強く取り組んでいる。	2.9	3.0	3.3	3.0			
2 学校は、子どもの主体性を大切にしたい支援を行っている。	3.5	3.2	3.9	3.0	○子ども達の発達段階に応じて支援をしながら、子ども達に達成感を味わわせるように支援している。 ▲全ての教員が同じレベルで支援できるよう意識をそろえる必要がある。	3	3.5	○生徒会を見ると「自分たちの学校を自分たちで作る」という意気込みが見える。 ○個人レベルの差はいないが、学校としてのレベルはそろえたとよい。
3 学校は、子どもの学習改善に繋がる支援を行っている。	3.4	3.3	/	3.0	○授業の基本的な流れを教員だけでなく子どもにも提示できた。早期から教科担任制を取り入れることで専門性の高い学習環境を提供できた。 ○学習評価の改善点が分かるように通知表の様式を転換した。	3	3.5	○教科担任制や通知表の様式の転換については良い取組みである。今後も検討を重ねながら進めていくとよい。
4 学校は、子どもや保護者との対話を大切にしたい支援を行っている。	3.4	3.0	/	3.0	○感染症拡大状況の中、適宜保護者と連絡を取るとともに、必要に応じて面談も行った。 ○年間を通して子ども達に対して計画的に教育相談を実施できた。 ▲保護者に対して新たな学校づくりへの理解促進がさらに必要である。	3	3.0	○新しい在り方としての学校運営協議会が十分周知されていないように感じる。町報などを活用して教育委員会から説明してもらえるとよい。
5 学校は、ねらいを大切にしたい教育活動を行っている。	3.5	3.1	3.9	3.2	○常に「ねらい」を意識し、教員主導及び子ども主体の活動が実践できた。そのために教員間での対話を大切に、共通理解をした上で活動を行った。 ▲今後も学校での取組を積極的かつ丁寧に地域や保護者に発信する必要がある。	3	3.5	○情報発信については、よりよい物に出来るようにさらに検討する必要がある。
6 学校は、必要な学校の情報を定期的に伝えている。	2.8	3.2	3.8	3.3	○学校での取組や子ども達の様子は学校便りやホームページにて情報を積極的に発信できた。 ○学校参観日の他、地域向けのフリー参観日を設定し、学校公開を行った。 ○全学年毎週の学年通信の他、生徒指導だよりや進路指導だより、保健だより、給食だより等も定期的に出せた。	3	3.5	

【 総 評 】

○今年度もコロナ禍であったが、義務教育学校開校1年目として、学校経営方針に基づき子ども達と一緒に教育活動に取り組むことができた。来年度も「ねらい」と「対話」を大切に、子ども達や教員が生き生きと生活できる学校の雰囲気づくりに全力で努めたい。
○学校の課題については保護者や地域と共有し、学校運営協議会（コミュニティスクール）との連携も深めながら、地域で子ども達を育てていく雰囲気を大切にしたい。